

# 富士通のスタンダード人材育成の 取り組み

2012年1月20日

富士通株式会社 知的財産権本部 スタンダード戦略室

佐藤 賢治

ksat@jp.fujitsu.com

## 目次

- 会社概要
- 富士通のビジネス・スタンダード戦略
- スタンダード人材教育が目指す人材
- 企業内教育ニーズ(階層別、事業別)
- 活動者向け教育活動(集合教育、出前教育、OJT)
- 経営者向け啓発活動
- 学生向け教育活動(インターンシップ、大学講義)
- スタンダード活動表彰制度
- 今後の人材育成の方向性

# 主要製品&サービス

## テクノロジーソリューション

### システムプラットフォーム

- 各種サーバ(メインフレーム、UNIXサーバ、PCサーバ)
- ストレージシステム
- 各種ソフトウェア(OS、ミドルウェア)
- 光伝送システム
- ネットワーク管理システム(携帯電話基地局)



### サービス

- コンサルティング
- システムインテグレーション
- アウトソーシングサービス
- ネットワークサービス
- システムサポートサービス
- システムインテグレーション/ネットワーク工事
- 専用端末装置(ATM、POSシステム)



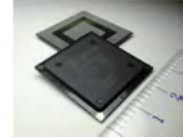
## ユビキタスプロダクトソリューション

- パソコン
- 携帯電話
- 光送受信モジュール
- その他



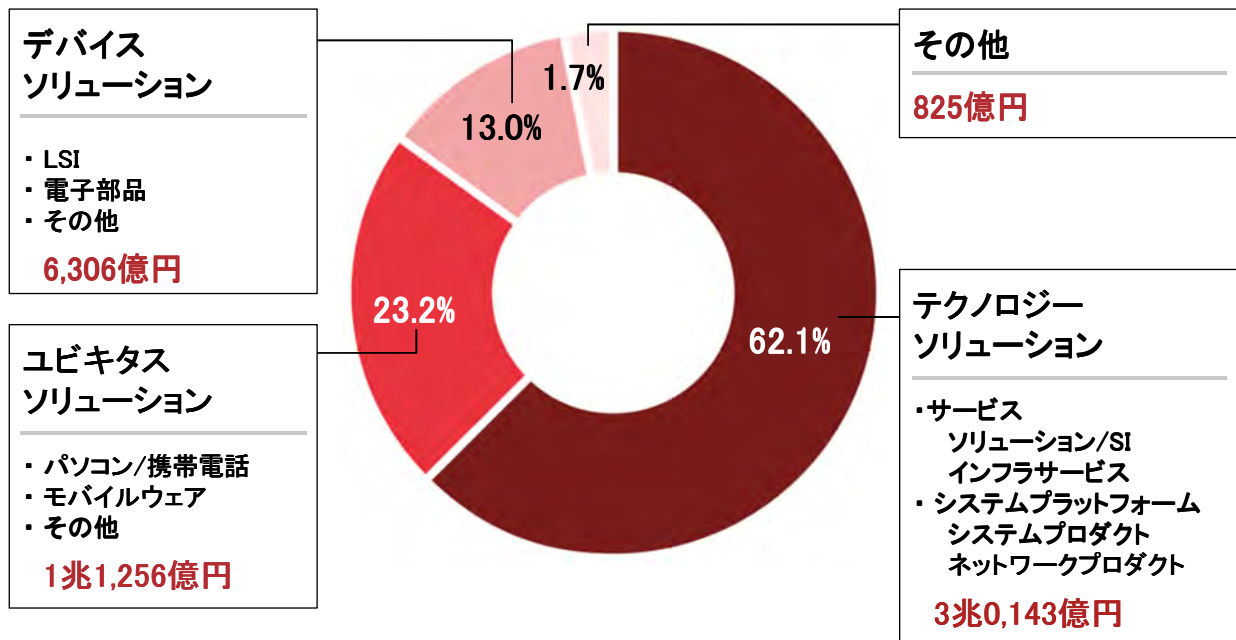
## デバイスソリューション

- ロジック LSI デバイス(システムLSI, ASICs, マイクロコントローラ, FRAM-embedded logic)
- システムメモリデバイス(フラッシュメモリ, FGRAM)
- 半導体パッケージ
- SAW デバイス
- その他、機構部品



# 売上構成(セグメント別)

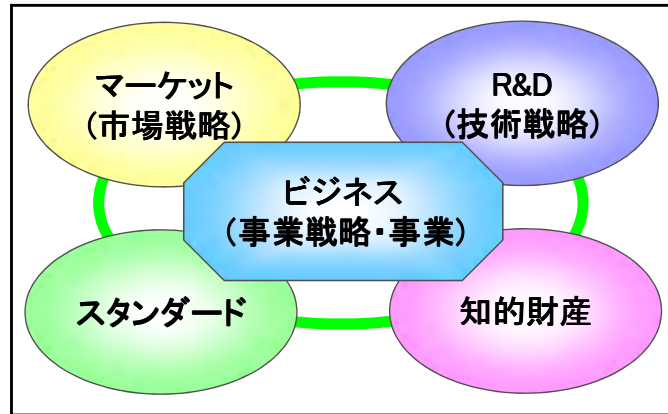
## ■ 2010年度事業セグメント別売上高



注: 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。(2010年度連結決算概要 6,7ページ参照)

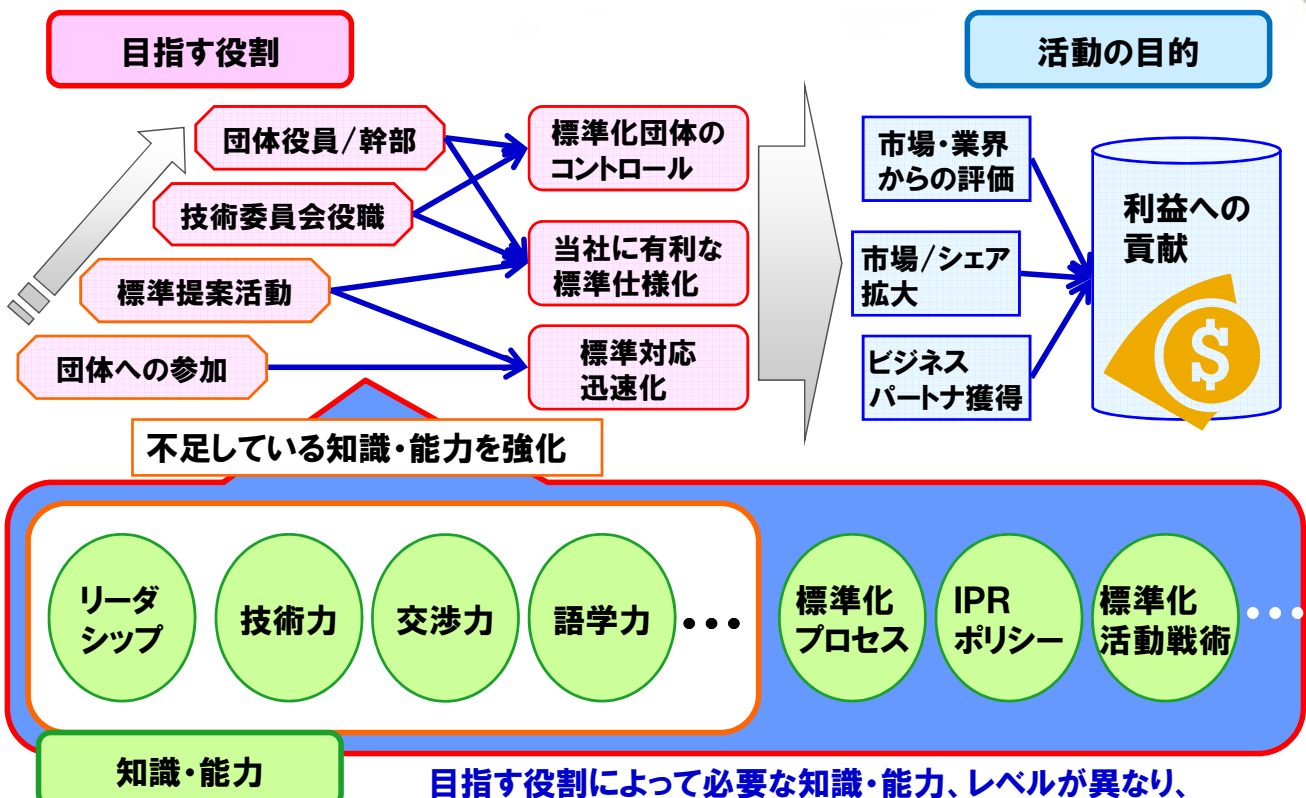
ビジネス戦略は、マーケティング、R&D、知的財産、スタンダードを「四位一体」として立案。スタンダード活動を事業戦略に組み込み

理想：四位一体



- ・開発初期から知財・スタンダード戦略取り込み
- ・自社技術の強い分野や共通化／差別化領域の検討が必要

## スタンダード人材育成が目指す人材



新人～若手

中堅～ベテラン



## 階層別に異なる教育ニーズ

①若年層

標準化活動の基礎知識

②中堅社員

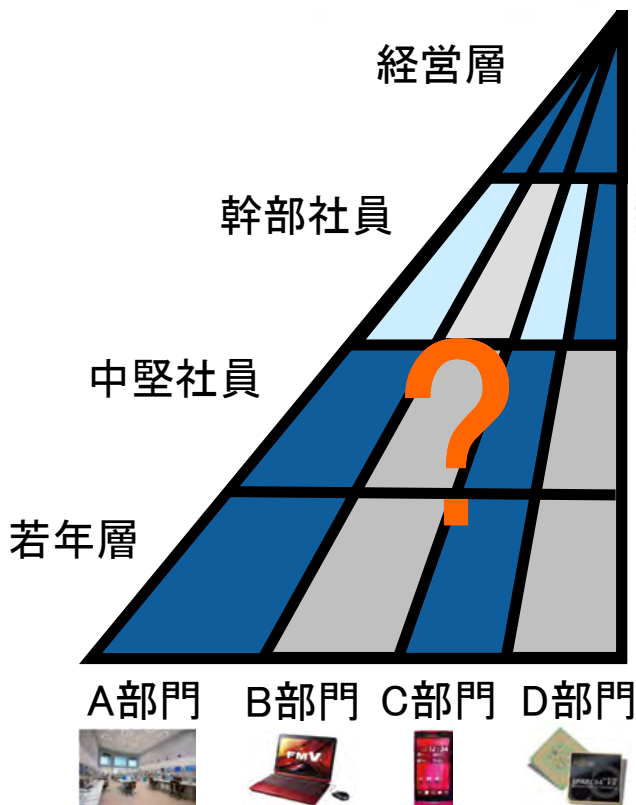
標準化知識の活用手法

③幹部社員

標準化戦略の企画と実践

④経営層

標準化をビジネス戦略に



- 標準化人材育成のニーズが事業部門ごとに異なる。
- どの階層に注力すべきか？
- どの程度の教育をすればよいか？

- 新規事業をスタートしたが、社内には関連する標準化の知識や経験が不足。
- 教育費用の負担がかかる。教育効果が分からない。



## 教育ニーズの分析(1)；活動者の声(アンケート)

質問内容：標準化活動をビジネスに活かすには

アンケート対象者：富士通グループの標準化活動従事者

・海外出張費がないわ  
・すぐに成果が出ない活動にも上司の理解が欲しい...



若手活動者

その他の要望

- 標準化会合のホスト支援
- 事業計画とスタンダード活動のリンク
- 社内スタッフやエキスパートのサポート
- 成果評価

・後継者がいない...  
・長年の経験を活かせないものか...



ベテラン活動者  
(スタンダードエキスパート)

- ・若手／上司：事業との関連が不明確
- ・スタンダードエキスパート：後継者不在。新たな活躍の場。

- 討論会「標準化活動をビジネスに活かすには」
- 出席者: 役員(標準化担当)~事業部長クラス、7名
- 意見

(1) 経営層の意識改革

標準化団体の役員や国際会合のホストへの就任

(2) 標準化の重要性の啓発

役員会などでの活動状況報告

標準化活動のビジネス貢献度の見える化

(3) 活動のたな卸し

活動内容を中期計画に明記

ビジネスに直結した活動に特化

活動継続の定期的な見直し



- ・経営者の啓発
- ・活動目的の明確化

## 初級活動者向け集合教育

1. スタンダード戦略の必要性
2. 社内のスタンダード活動推進体制
3. 主要な標準化機関・フォーラム
4. スタンダードと知的財産権の関連
5. スタンダード戦略・事例

- ・内容: 部門共通の基礎知識
- ・対象: 初級標準化活動者(若年層、中堅社員、中堅幹部社員)
- ・応募制(必要に迫られて受講)、集合教育
- ・頻度: 年二回

# 裾野拡大に向けた出前教育

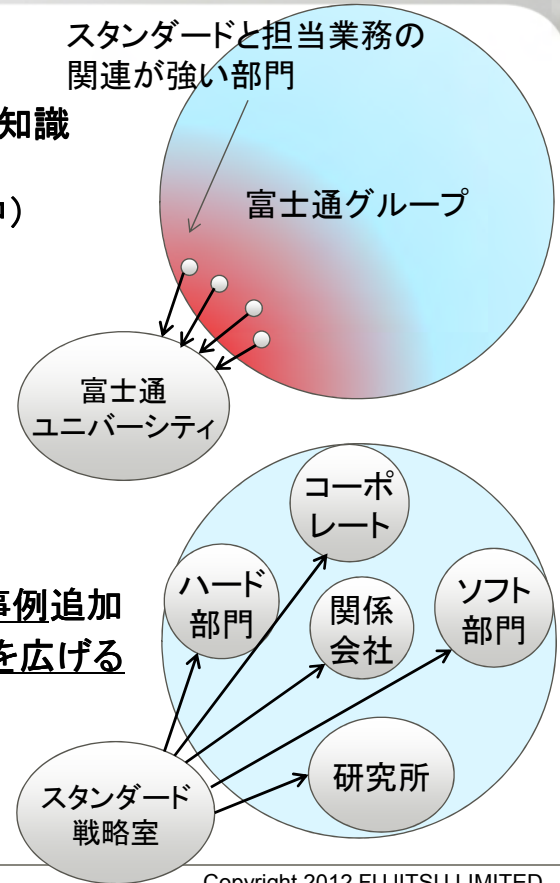
## ■ 集合教育

- 講義内容: スタンダード・関連知財の基礎知識
- 特徴: 受講は応募者に限定  
(通信・デバイス・知財部門に集中)
- 頻度: 年2回(夏、冬)



## ■ 出前教育

- 講義内容: 部門別カスタマイズ、身近な事例追加
- 特徴: 押しかけ教育(おせっかい)、裾野を広げる



# 出前教育の反響

## ■ 部門1

|                            |
|----------------------------|
| 具体例があり、わかりやすかった            |
| 過去の成功・失敗事例を分析して将来につなげてほしい  |
| 自分の組織と関連する業務があることが分かった     |
| 特許戦略も含めて、何か中長期的な活動がしたい     |
| 次回はスタンダード戦略室の実際の活動を詳しく聞きたい |

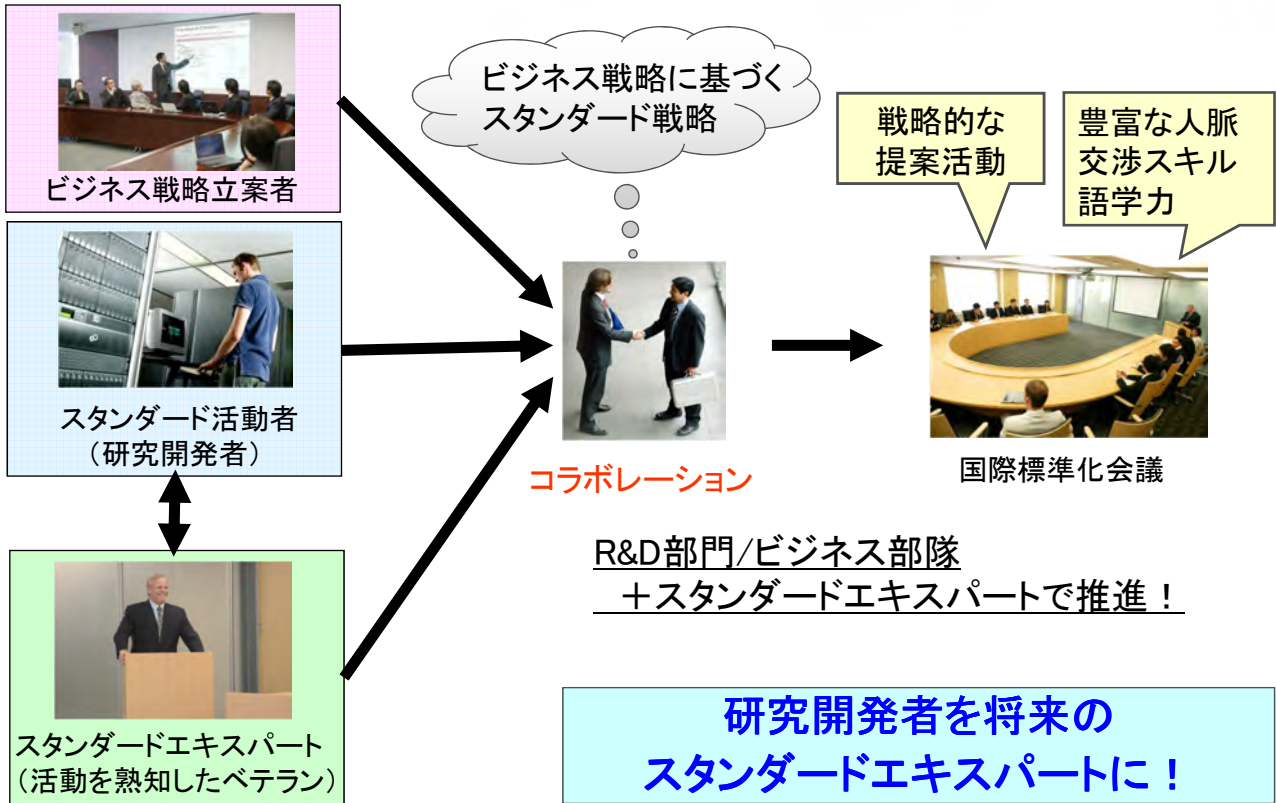
## ■ 部門2

|                                |
|--------------------------------|
| 身近な事例があり、分かり易かった               |
| 痛い目にあっている事例分析が大事。事例を社内共有すべき    |
| 次回は、知財をテコにしたビジネスと戦略展開シナリオを伺いたい |

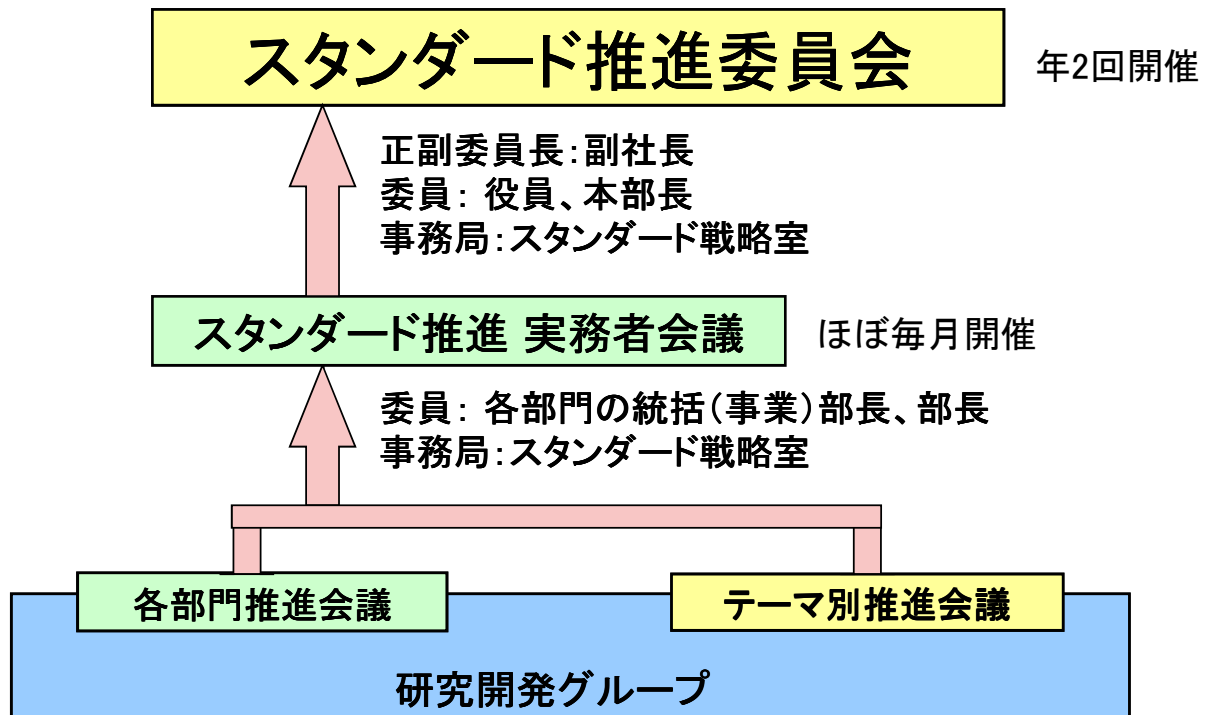


好評。さらに踏み込んだ議論を切望する声も

# 活動者向けOJT(エキスパートとの連携)



# 経営層への啓発活動





- 対象：大学(院)生、高等専門学校生
- 人数：1～3名／期（マッチング面談にて選抜）
- 時期：7月～9月（主に夏休み期間）
- 期間：3週間／期 × 3期／年（2011年）
- 活動：基礎教育受講、会議傍聴（MIC、JISC、他）、実習
- 実習内容(例)
  - 企業の標準化活動動向分析（標準化戦略の理解）
  - 標準化活動の審議経過整理（標準化プロセスの理解）
  - 各団体のパテントポリシー改訂状況調査（知財活用の理解）

- 慶応大学大学院メディアデザイン研究科
  - 2009、2010年度後期
  - 7回シリーズ
- その他（2008～2011年度、1～2回シリーズ）
  - 東大、東大院、千葉大、群馬大、香川大、明大、創価大(工)、東京理科大
  - 共立女子高

## ■ 目的

- 1) 社内スタンダード活動のプレゼンス向上
- 2) スタンダード活動者のモチベーション向上

活動の励み  
になったわ



## ■ 概要

- 年一回、スタンダード推進委員会にて
- 貢献賞、推進賞
- 委員長(副社長)より表彰状、賞金目録授与
- 対象者: 富士通グループ会社所属の個人、またはグループ
- 選考基準: ビジネス貢献、草の根的活動(日の当たらない人)
- 平成22年度より

申請手続が、自身の活動内容の  
位置づけを振り返るきっかけ

# 今後の人材育成の方向性

## ■ 初級教育の充実

- 出前教育
- ステップ教育(新入社員、新任幹部社員など)

## ■ 中・上級教育、座談会の定例化

- 教育: 各団体directives、標準化プロセス、成功/失敗事例、他
- 座談会: 事業別のスタンダード戦略の位置づけ明確化

## ■ スタンダードエキスパートによる組織横断的実務教育

## ■ その他

- ビジネス貢献度の見える化
- 表彰の人事考課への反映

(完)